

# アフリカ理解促進のための教材ニーズ調査

白鳥くるみ 山岸玲

アフリカ理解プロジェクト

## 1. はじめに

本報告は、アフリカに関心を持つ人たちの間にどのような教材ニーズがあるのかを、私たちアフリカ理解プロジェクトがアンケートを中心に調査し、それを分析したものである。

近年、日本においても学校、社会教育などの場で途上国への理解を促進しようという動きが活発化している。しかしながら、日本のメディアなどが取り上げる途上国の情報は未だに限定的であり、その取り上げられ方も表層的で偏りがみられる。なかでもアフリカは、他の途上地域に比べ、質量ともに情報が乏しく、人々の関心も低い。またアフリカ報道では飢餓、貧困、紛争といった「貧しくて気の毒な」援助対象としての情報が多く、それがアフリカに対する偏見を助長してきたことが本調査からも明らかになっている。

これまでメディアや教育の場で、扱われることの少なかったアフリカの人々の生活・文化・英知なども含む、多様なアフリカを伝える教材の作成や情報の提供が求められている。

## 2. 調査方法・対象

アンケートおよびインタビュー調査を2003年の3月から4月にかけて、質問票をメールリスト・郵送・手渡しにより配布する方法で行い、関心を持つ46名から回答が寄せられた。回答者の構成は30代が最も多く、続いて20代、40代、その他の順であった。回答者の職業では、教師（31%）とNGO関係者（15%）で全体の

半分を占め、企業関係者（15%）とODA関係者（11%）で4分の1、約1割が学生（9%）であった。（質問票は●●ページ参照）

## 3. 分析

### 3-1. テーマ別から見た受講者の反応

■回答者が必要と思う教材と情報の種類  
(回答数の多い順、複数回答可、回答者数45、カッコ内は回答数)

1. ビデオ写真などの視聴覚教材 (32)
2. 授業・活動のための事例集・ヒント集(22)
3. アフリカの人たち・子どもへのインタビュー(20)
4. 各種データ(17)
5. ティーチングアイデア集(17)
6. 地図(15)
7. アフリカの最新情報(15)
8. 生徒のためのワークシート(14)
9. 民族衣装等実物(13)
10. 絵や漫画(12)
11. 学校カリキュラムへのリンク集(8)

アンケート調査では、まず回答者が過去に行った授業、研修、ワークショップ等で、受講者の反応が良かったテーマについて質問した。

小学生が「同世代の子どもやアフリカの人たちを応援する仕事・現地での活動、人々の暮らし」、また中学・高校生も「国際支援や同世代

の子ども」に関心を示した。その一方で、「受験や教科学習に関係がないと関心を持たない」「ギャップに背を向ける」「自分の住んでいるところからあまりに遠く、不思議なものを見ているような目をする」中・高校生も見受けられるという教師からの回答を得た。

大学生では、「現地での活動・国際協力の仕事、ドキュメンタリー番組をテーマにしたもの」に関心を示すものの、講義全体では「良かった」「まあまあ」「6～7割が寝ていた」というものまで幅広い反応が見られた。

一般では、「料理など身近なテーマ」「日本人が活躍している現地の活動の様子」「スタディーツアーの事前・事後学習現地での農民との話し合い」といった、受講者が直接、間接的にその活動に関わる、または関心を持つテーマが好評であった。

「家族をテーマにアフリカ人を交え、家族のあり方を見直す」といったディスカッションが好評だった、という回答があったが、新しい角度からアフリカとの接点を捉える試みとして注目できる。

### 3-2. 形式別から見た受講者の反応

回答者が過去に行った、どのような形式による授業、研修、ワークショップ等が好評であったかという質問では、小学生の「総合学習の時間」に「実物・体験型授業ゲーム（バオ・バファバファなど）」が好評。

中学・高校生の「教科授業・総合学習の時間」では、「映画やビデオなどインパクトのある視聴覚を視聴する、ゲームなど受講者が直接参加できる」形式が好評であったとの回答を得た。

大学生の「アフリカ文化論などアフリカ関連をテーマにした講義、現代アフリカ論・アフリカの概要（地理・歴史・文化）、農業開発協力の事例」では、「NHKのドキュメンタリービデオの視聴や自作スライド（複数）」といった形式、「パワーポイントを使用する」形式が見

られたが、その反応は「良かった」とするもの、「まあまあ」「ほとんど関心を示さなかった」とするものまで幅広い。

一般では、「スタディーツアーの事前・事後学習、現地での農民とのワークショップ、NGOによる活動説明会・報告会、技術者派遣講義など」で「パネルディスカッション形式、スライドショー、参加型ワークショップ、アフリカ人講師の参加する」という形式を用い、受講者の反応が良かったとする回答者が多かった。

またイベント・ワークショップでの「受講者が参加できる参加型形式に成功事例」が多く寄せられた。受講者の関心を高めるには、受講者のニーズを的確につかむとともに、従来の講義形式だけでなく、参加型の形式や手法を取り入れるといった工夫が必要であろう。

### 3-3. 必要な教材と情報の種類

どのような教材や情報が必要かという直接的な質問では、視覚に訴えるための「ビデオなどの視聴覚教材」ニーズが最も高く、また「授業事例集」や「ティーチングアイデア集」、「ワークシート」など、具体的なアイデアやすぐに使える教材や情報への要望が多かった。

日常的なアフリカや、小中高生の子どもたちが同年代のアフリカの子どもたちに関心を示すという回答者の経験から「アフリカの人たちや子どもたちへのインタビュー」という要望も多かった。

### 3-4. 視聴覚の優先度

■回答者が優先する視聴覚  
(優先度の高い順、回答者数25)

- |         |         |
|---------|---------|
| 1. ビデオ  | 2. 写真   |
| 3. CD-R | 4. スライド |
| 5. パネル  |         |

インパクトの強さ、導入・展開・まとめとしてどの部分でも使える、また様々な教育現場での設備環境を考えてか、扱いやすく手頃なビデオ・写真が上位となっている。アンケートではビデオ・写真に続き3位となっているが、教育現場でのIT教育の普及により、今後インターネットやCD-Rのニーズは増加すると考えられる。受講者側の反応としては、小学校高学年～中学生がビデオ・写真に「内容が分かりやすい」「今まで持っていたイメージと違った」「活発な質疑応答」、高校生はビデオと解説で「知らなかったことに感心と驚き、スケールの違いに圧倒される」「非常に分かりやすい」「難しい、受験に関係ないという反応」「ギャップに目をそむける」、大学生ではドキュメンタリービデオに、「アフリカに無関係な専攻も興味」、現地で撮影したスライドや・NHKドキュメンタリービデオに「まあまあ反応」、一般では講師が用意したOHPに「まあまあ」、ポスターや写真に「大変面白かった」、活動紹介のスライドに「インパクトがあった」、写真とアフリカの実物に「大好評」というコメントがあった。ビデオ（NHKや欧米のドキュメンタリー番組）や写真（開発教育の教材として手法が練られているもの）、自作の写真・スライド（受講者のニーズに合ったもの）が、どの層の受講者にも好評であった。

### 3-5. 必要とされる教材や情報のテーマ

#### ■回答者の求める教材・情報

（優先度の高い順、複数回答化、回答総数45、カッコ内は各項目の回答数）

- |                  |               |
|------------------|---------------|
| 1. 歴史(12)        | 2. 家族の暮らし(12) |
| 3. 個別の国・地域理解(11) | 4. 食べ物(11)    |
| 5. スポーツ・娯楽(9)    | 6. 子ども(8)     |
| 7. 自然・動物(5)      | 8. 女性(4)      |
| 9. 建築・遺跡(4)      | 10. 音楽(3)     |
| 11. 衣装(2)        | 12. 踊り(1)     |
| 13. 民芸・美術品(1)    | 14. 文学(1)     |

どのようなテーマの教材や情報が必要かという質問には、「歴史」を挙げる回答者が多かった。これは教職者や学生に、よりその傾向が見られた。過去から現在に至るアフリカを単なる情報としてだけではなく、先進国との関係、歴史的な背景から捉えたいとする回答が多くあった。また続いて多かった「家族の暮らし」や「子ども」、「食べ物」、「スポーツ・娯楽」は、教職者やNGOなどの回答者にみられた。アフリカのごく日常的な様子を知りたいという要求、あるいは伝えたいという回答者の目的にかなう教材が求められたのではないかと考えられる。

### 3-6. 日本の中のアフリカ

#### ■日本の中のアフリカに関する情報源

(回答数の高い順、複数回答可、回答総数27、カッコ内は回答数)

1. アフリカ関連 NGO(11)
2. アフリカからの輸入品(7)
3. 青年海外協力隊(7)
4. JICA(5)
5. 研究機関(5)
6. 日本アフリカ交流史(5)
7. レストラン(4)
8. 民間交流団体(2)
9. 旅行会社(1)
10. 大使館(1)

日本で得られるアフリカの情報源として上位5位中アフリカ関連のNGO、協力隊、JICA、研究機関といったアフリカで実際に活動している団体が4つ挙げられている。日本が、あるいは日本人がアフリカにどのように関わっているか、という情報をこうしたところから得ていることが伺える。2位のアフリカからの輸入品への回答も、遠いアフリカと日本とのつながりを、輸入品を通じて身近なものとする目的、また地理・歴史・社会などの教科へのリンクとして必要な情報であると考えられる。

アフリカ各国の情報を得るために大使館は有効な場所であると考えられるが、アンケートではアフリカの日本窓口としての大使館へのニーズが極めて低い。大使館は敷居が高いイメージがあり、情報を得るための「手ごろな場所」としては考えられていないことが伺える。

### 3-7. アフリカが直面する長期的課題

#### ■アフリカの課題

(優先度の高い順、回答総数23、カッコ内は回答数)

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. 紛争(16)    | 2. 食糧(12)     |
| 3. 教育(11)    | 4. 環境・砂漠化(11) |
| 5. 難民(11)    | 6. エイズ(8)     |
| 7. 医療・保健(8)  | 8. 衛生・水問題(9)  |
| 9. 貿易の不均衡(7) | 10. 累積債務(4)   |

アフリカが抱えている長期的な問題のうち知りたい情報は何かという質問には、それぞれ相互関連しているためか選択肢ごとの優先度に大きな差は見られなかった。「紛争」は、時事を含む問題であるためか、他と比べてやや多い。

### 3-8. 欲しい特定地域・国の情報

アンケートの結果では、明らかな傾向は見られなかった。比較的上位に挙げられた国に、学校教科と関連して取り上げられる、紛争・難民・飢餓といった問題に関連し、時事報道の対象として流される、日本人による国際協力活動が行われている、メディアによる情報が多く流されている国・地域という傾向が見られる。

### 3-9. 教材のコスト

どのくらいの費用が、年間教材費として使えるかという質問には、約7割のアンケート回答者が30,000円までの予算手当てが可能としている。また教材として質の高いものならば自己負担をしてもよいとする回答がいくつか見られた。しかし小規模NGO、自治体、個人購入では、教材の予算が限られており約3割が5,000円以下でという希望があり、これらの意見も考慮されるべきであろう。

### 3-10. 回答者が持つアフリカのイメージ

アフリカ渡航経験、アフリカ以外の途上国経験、途上国への渡航経験なしによって、そのイメージや表現方法に大きな違いが見られ大変興味深い。渡航経験した回答者が抱くアフリカのイメージや表現方法は、「人々の明るさ・笑顔」「ポジティブな原動力」「あふれる生命力と鮮やかな服装と音楽」「学びの場」といった正の印象を多く有しているが、「格差」「AIDS」「砂漠化」といった現実的な問題を抱えるアフリカといったイメージも併せ持っている。

アフリカ以外の途上国経験者では、「力強さ」「始まり」「笑顔」といった正の印象と、「部族闘争」「食糧問題」「紛争」「難民」といった負の印象が混在している。途上国への渡航経験がない人たちのアフリカのイメージや表現方法は、「治安の悪さ」「貧困」「病気」「未開発」「難民・紛争」「植民地や黒人」「テロ」といったメディアやODAやNGOの広報などで伝えられる表現や言葉と重なるものが多く、国内外における途上国情報によって受動的に成り立っていると考えられる。若干挙げられる正の印象も「広い大地」「青空・森」「動物王国」といった抽象的なものとなっている。

回答者の持つアフリカのイメージは、渡航経験した回答者は、現実的なアフリカの問題を

理解しつつも、正の印象を多く有しているのに比べ、アフリカ以外の途上国経験者では、正の印象と負の印象が混在している。途上国への渡航経験がない人たちのアフリカのイメージは、メディアなどで伝えられる表現や言葉と重なるものが多く、国内外における途上国情報によって受動的に成り立っていると考えられる。アフリカ渡航者によるイメージや表現方法には、従来のステレオタイプにはない、生き生きとしたアフリカが伝えられる可能性があると言える。

## 4. 調査から分かったこと

回答者の経験を対象者別にまとめてみると、小・中・高校生、大学生、一般では、異なる教材ニーズのあることが分かった。

小学生は同世代への関心が高く、アフリカの子どもたちへのインタビューなどが情報として必要とされている。

中・高生は国際支援や同世代への関心がある他、受験や教科学習に関する関心が高く、視聴覚教材や生徒が参加できる参加型形式の教材が求められている。

大学生は現地活動や職業としての国際協力に関心が高く、教材としてはドキュメンタリーが効果的に使えるようである。

- ・草原、大地、暑さ(研究、スポーツ交流)
- ・わくわく(協力隊)
- ・ドラマの音、ラテライトの土、バオバブの木、女性の衣装(旅行、NGO)
- ・発展途上国(ボランティア)
- ・人々の明るさ、笑顔(NGO)
- ・原点(企業)
- ・一言で言えない(NGO、JOCV)
- ・世界から取り残された、遠い地域、木々の躍動感、人類発祥(観光、仕事)
- ・あふれる生命力と鮮やかな服装と音楽(取材)
- ・頭に荷物をのせ(はだして歩く少年(JICA調査)
- ・素朴、大地(果樹栽培)
- ・AIDS(JICA短期調査団)
- ・砂漠化(JOCV)
- ・裸、枯れている、ポジティブな原動力(ボランティア)
- ・エネルギーの固まり(プロジェクト調査)
- ・たくましい人たち(JOCV)
- ・豊かさ(観光、ST)
- ・光、混沌、力
- ・多様性(調査、研究)

### A. アフリカ渡航経験有(アフリカ授業等実践の経験者)

AB 力強さ(観光) ・笑顔 ・始まり

ABC 貧困、野生動物、自然、紛争

### B. アフリカ以外の途上国渡航経験有

- ・部族闘争(観光)
- ・熱帯、都市化、難民、貧困(観光、ST)
- ・紛争(NGO)
- ・力強さ(観光)
- ・始まり、歌、踊り、大地(観光)
- ・笑顔、黒人(ST)
- ・自然、動物、水、食糧問題(旅行)

### C. 途上国経験無

- ・広い大地、青空、森
- ・動物王国・動物・楽器
- ・貧困、病気、治安の悪さ、テロ
- ・サバンナ、ステップ
- ・植民地や黒人
- ・発展途上国、人権問題、砂漠
- ・中国に代わるビジネスになれ(美しいなあ)
- ・自然、ジャングル
- ・難民、紛争、未開発
- ・多様性(調査、研究)

一般の人々は料理、海外の日本人活動、スタディーツアーなどに関心が高く、直接活動に関わる情報に注目が集まる傾向がみられる。

スライドなど現場の映像が教材として求められ、形式としてはパネルディスカッション、ワークショップ、アフリカ人の講師などが効果的である。全体として受講者の関心を高めるには、受講者のニーズを的確につかみ、従来の講義形式だけでなく、ゲームやワークショップなど、参加型形式や手法を取り入れた方法を検討することが必要である。学校、NGOどの分野においても、視覚に訴えるためビデオなどの視聴覚教材、事例集やアイデア集、ワークシートなど、すぐに使える教材や情報への要望が高い。

内容も飢餓・貧困といったアフリカの問題を扱う教材だけではなく、家族の暮らしやスポーツ・娯楽など、アフリカのごく日常の様子を伝える教材も求められている。

また「普通の人々の日常の様子」「淡々と描かれた映像：アフリカ=かわいそうの図式にならないもの」が必要という回答者のコメントには、情報を提供する側と受け取る側のコミュニケーションが必ずしも取れていないことが伺える。

「現場の生きた情報や経験を国内向けに分かりやすく整理加工することが不可欠」「教材作りにはいろいろな職業を持った人が携わると、よい教材ができる」「教材作成の目的を明確にする」という意見にみられるように、現場にプロジェクトを持つODA・NGOと学校・社会教育現場の教師や関係者との連携活動は、より広範囲で行われることが重要である。

「アジアなどの近隣国に比べ、日本とのつながりの薄いアフリカ教材は《個性》で作るのがよく、アフリカの面白さを前面に出したユニークな教材に可能性が感じられる」というコメントに見られるように、アフリカの智慧や個性を感じさせる教材開発も検討されると良いと思う。

## 5. 提言

今回のアンケートは回答総数が46通と少なめであったが、調査集計を見て分かるとおりの詳細は、**アフリカ理解プロジェクトページを参照** (<http://www.africa-rikai.net/>) 書き込まれた情報量は多く、回答者のアフリカ教材に対するニーズの高さが伺えた。

日本人にとってアフリカは、地理的、心理的、政治・経済的に遠い国であるが、国際協力機構がアフリカ重点政策を打ち出し、学校・社会教育の場では、世界規模の課題としてアフリカの問題が取り上げられる頻度が増すなど、アフリカの教材開発や情報提供へのニーズは年々増加している。回答者のコメントには「教材の数そのものが少ないので増えることを希望する」「適当な教材や情報があれば、ぜひ授業に取り入れたい」といった教材や情報の提供を求める声が多くみられた。

ODA・NGOと学校・社会教育関係者のネットワークを促進し、それぞれの場面に応じた教材開発を進めていくことが不可欠である。ネットワークを通じて、例えばウェブ教材のような、コストがさほどかからず、最新情報の提供や更新が容易で、どこからでもアクセスができ、双方向でのコミュニケーションが可能な教材開発が検討されるべきではないかと考える。

定期的にアフリカ情報や教材等を学校や社会教育の場、あるいは一般の人たちに向けて提供することで、アフリカへの関心は飛躍的に高まるだろう。その際「情報を伝える側」は、広報活動をより積極的に行うと共に、「知りたい側」のニーズに的確に対応できるようなシステム・資料づくりなどが必要であろう。

今回の調査は、アフリカ教材に関する現状やニーズ、回答者のアフリカのイメージなどをまとめたものである。プロジェクトでは今後も調査を続け、現在あるアフリカ教材の分析、実践

から見る教材のニーズ分析など、より詳細な提言をしていきたいと考えている。

学校や社会教育の場でアフリカ理解を推進することを目的に立ち上げたプロジェクト。ウェブを通じて、調査・提言、ワークシート教材の提供、アフリカの最新情報・アフリカの取り組み事例を紹介し、教材開発、プログラム提言などの活動も行っている。

アフリカ理解プロジェクト

<http://www.africa-rikai.net>

#### アンケート

- Q1 あなたの現在のお仕事と経験年数を教えてください。
- Q2 あなたは、おいくつですか？
- Q3 あなたは開発途上国に行った経験がありますか？（はい・いいえ）  
何度も経験のある方は、滞在期間の長い国から5つ書いてください。  
1) どの国に 2) どのくらいの期間 3) どのような目的で
- Q4 「アフリカ」という言葉から浮かんでくるイメージはどのようなものですか？
- Q5 これまで「アフリカ」をあつかった授業、講演、ワークショップなどを行った経験がありますか？（はい・いいえ）  
複数ある方は、一番最近のもの、あるいは、反応がよかったものを一つ書いてください。  
1) どのような形式で 2) どのような内容を 3) 年/月 何回  
4) そのときの生徒・観客の反応はどうでしたか？  
5) どのような教材を使用しましたか？教材・種類名  
6) その教材は使いやすかったですか？（はい・いいえ）  
はい：どのようなところが使いやすかったですか？  
いいえ：どのようなところが使いにくかったですか？
- Q6 Q5で「いいえ」と答えた方、適当な教材があればやってみたいと思いますか？（はい・いいえ）
- Q7 上記で「はい」と答えた方、どのような教材や情報が欲しいですか？またすでに経験があると答えた方、より効果的な授業、講演、ワークショップなどを行うために、教材や情報としてどのようなものが欲しいですか？（複数可）  
1) アフリカの最新情報 2) ビデオ・写真などの視聴覚教材 3) 地図 4) 絵や漫画  
5) アフリカの人たち・子供たちへのインタビュー 6) 各種データ 7) 授業や活動のための事例集・ヒント集 8) ティーチングアイデア集 9) 生徒のためのワーキングシート 10) 学校カリキュラムへのリンク集 11) 民族衣装など実物 12) その他（具体的に）
- Q8 Q7で2)のビデオ・写真などの視聴覚教材を選んだ方、ビデオ、写真、スライド、CD-R、パネル、その他（具体的に）の中で、どれが必要ですか？（必要な順に番号をつけてください。）
- Q9 どのようなテーマの教材や情報が欲しいですか？（複数可）  
1) アフリカの文化・生活  
個別の国・地域理解、歴史、文学、音楽、衣装、踊り、スポーツ・娯楽、食べ物、家族の暮らし、子ども、女性、民芸・美術品、建築・遺跡、自然・動物 その他（具体的に）  
2) 日本の中のアフリカ  
アフリカからの輸入品、レストラン、旅行会社、アフリカ関連のNGO、JICA、青年海外協力隊などボランティア、大学・研究機関、民間交流団体、大使館、日本アフリカ交流史、その他（具体的に）  
3) アフリカが直面する長期的課題  
食料、教育、環境・砂漠化、紛争、難民、エイズ、医療・保健、衛生・水問題、貿易の不均衡、累積債務、その他（具体的に）  
4) その他（自由記述）
- Q10 特に、アフリカのどの地域・国の情報が欲しいですか？（複数可）
- Q11 どのくらいの費用を、年間の教材費として使えますか？  
資金はどこが出してくれますか？（ ）  
1) 5,000円以下 2) 10,000円まで 3) 20,000円まで 4) 30,000円まで 5) 30,000円以上
- Q12 教材が完成したら、使ってみたいと思いますか？（はい・いいえ）
- Q13 アフリカ理解教材について、ご意見やご要望がありましたらお願い致します。

出典：『開発教育』50号、(特活)開発教育協会、2004年8月